

スローガン

1. 下水道による残業務の安定的継続のため、合理化事業計画の推進、転換業務の獲得
2. 下水道に接続されない浄化槽（合併）の社会的地位の確立
3. 新浄化槽維持管理システムの推進
4. 浄化槽（合併）を併用した農業集落排水処理業務事業計画の実現
5. 市町村の責務である一般廃棄物処理計画の策定推進
6. 一般廃棄物収集運搬業務の責任業務の遂行

広報

福島環境整連

発行
福島県環境整備協同組合連合会
 住所/いわき市内郷高坂町大町138番地2
 TEL 0246-27-8818 FAX 0246-27-8813
 発行者 岡 光義
 編集責任者 瀬戸崇志

令和3年通常総会

賦課金の徴収方法の変更を可決
新型コロナウイルス感染症対策を万全に



3年度 福島県環境整備協同組合連合会 通常総会



令和3年度 福島県環境整備協同組合連合会 通常総会

令和3年度事業予算(案)管理を加えた。

本会は、5月25日に郡山市の「郡山ヒューホテル」において、令和3年度通常総会を開催した。

新型コロナウイルス感染症拡大が懸念される時期であったため、大変残念な事でしたが来賓の方々や顧問へのご案内を控え、テーブルにパーティションを設置し、手指消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンスを確保して開催の運びとなった。組合員約50名が出席。

江口典志氏(旬福島青興社)の司会進行により、山川副会長の開会挨拶の後、岡会長から挨拶がなされた。

議長に 柳沼宏氏(中央清運旬)を選任し審議に入った。

令和2年度事業報告、収支決算並びに剰余金処分案について執行部から報告され、磯目監事による監査報告がなされた。審議の結果、それぞれ原案どおり異議なく可決決定された。

続いて、令和3年度事業計画(案)について執行部から説明があり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、前年度十分な事業活動ができなかったため、本年度も同様の14本の主要事業を提案した。また、総務委員会事業に昨年度開設したホームページの運営、

では事業計画(案)に基づき記念式典開催費を予算措置し、一般管理費を含めた予算総額175.2万2千円を提案した。

次に、議案第5号賦課金の賦課及び賦課徴収方法決定の件について執行部から説明があった。前年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、十分な事業の執行が出来なかったため剰余金が多くなったが、本会の賦課金徴収方法が一括のため会員へ返金することは中央会法で禁止されており、例年同様の収支決算と剰余金処分を行った。今年度については、新型コロナウイルス感染症がどの程度事業運営に影響を及ぼすかは不明であるが、令和2年度第5回理事会において、例年同様に予

県環境整連役員 (令和5年度総会まで)

役職	氏名	組合名	会社名
会長	岡 光義	いわき市	(旬)勿来衛生社
副会長	山川 正人	北 沼	山川産業(旬)
専務理事	猪俣 孝之	両 員	坂下清掃(旬)
理事	近藤 孝幸	福 島 市	(旬)信陵サービス
"	紺野 好久	安 達	(旬)協同清運
"	難波志呂美	郡 山 市	郡山清興(株)
"	浦部 公伸	アメリニティ郡山	(旬)福島青興社
"	江口 典志	須賀川	松宮(株)
"	松宮 秀泰	会津若松市	第一清掃(旬)
"	池部 敬子	会津中央	北会津清福(旬)
"	古田 泰助	(協業)県南	(株)セイビ
"	紺野 竜一	川 俣	(株)川俣環境
"	鳴原 北斗	(協業)県南環境	(協業)福島県南環境衛生センター
"	本多 幸雄	南会津	(旬)福島浄化
"	渡部 洋紀	喜多方	(旬)昭和衛生
"	白水 勝成	双 葉	(旬)阿部衛生社
"	阿部 永子	南相馬	(株)昭和衛生センター
"	田原 義久	相 馬	(旬)長栄社
"	長尾 一雄	石 川	アメニティ石川地方エコービス(協業)
"	阿部 勝美	いわき市	(旬)いわき環境センター
監 事	長尾 昌也	アメリニティ郡山	(旬)第一清掃社
"	磯目 智仁		

全国大会
中止のお知らせ

昨年本年と 全国環整連全国大会の「優良役員」「優良従業員」表彰者のご推薦をいただき、また組合員の皆様には、大変ご迷惑をお掛けいたしました。新型コロナウイルス感染症拡大が懸念され、昨年に引き続き全国大会の開催が中止になりました。

来年の開催については、開催場所も含め改めて環整連総会において決定されるこのことであります。

何卒ご了承くださいませようお願いいたします。



福島県環整備設立60周年記念式典

式 辞

本日ここに、福島県環境整備協同組合連合会設立60周年記念式典を挙行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、公私共にご多用にもかかわらず、福島県中小企業団体中央会副会長金成様のご臨席を賜り、誠に喜ばしい限りであります。

組合員を代表して衷心より厚く御礼を申し上げます。

次に、本日感謝状を受けられる方々におかれましては、永年にわたり本会の役員として精励され、業界発展に尽力されたご功績に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表します。

さて、本会は、前身であります福島県清掃組合連合会が昭和34年に設立されて以来、60年の歳月が過ぎました。

平成22年5月「50周年記念式典」を挙行し、10年目の昨年令和2年5月22日に「60周年記念式典」開催の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により1年延期して規模を縮小しての開催となりました。

先ほど物故会員に対する黙祷が捧げられましたが、特に本会発展に貢献された歴代会長のうち、三代会長瀬戸六郎氏、五代会長山川敏幸氏がお亡くなりになりました。

改めて哀悼の意を捧げ、冥福

をお祈りいたします。

本会のあゆみは、わが国の生活環境保全と公衆衛生の歴史であり、我々業界の社会的地位向上の歴史であります。

業界の社会的地位に関する問題は、新規業者の発生による過当競争、一般廃棄物の収集運搬に対する人札適用の是非等がございましたが、最高裁判決を受けて平成20年10月8日に環境省から部長通知が発出され、法的には一定の決着が付けられました。

しかし、行政では人事異動により法的な情報が伝達されていない可能性があるため、定期的な研修や地元組合と行政とのこまめな意見交換が重要になります。この度、青年部が

「手元に置きたい基礎知識」と題した法令等の基礎資料を取りまとめましたので、会員の皆様には今後の活動にお役立ていただきますようお願いいたします。

さて、この10年間を顧みますと、災害に翻弄された10年でした。特に、東日本大震災では被害が県全体に及びましたが、浜通りでは津波と東京電力原子力発電所爆発事故のダブルの被災により、言葉にできない程のダメージを受け、双葉郡内では事業継続を断念し廃業した組合員が出たことは痛恨の極みであります。

また、令和元年東日本台風で

は、いわき市の2社が水没し多くの車両が使用不能となり、郡山市では処理場の水没により郡山の組合員が作業困難となりました。幸い県内の業者が助け合い、車両の提供や県内各所への汚泥転送業務を組織的に実施して乗り切ることが出来ました。

このような災害対応は、全国環整備や全清連を通して他地区の災害支援に参加したり、研修会での災害支援報告会にてノウハウを得たことが大きく役に立ちました。

この数年は、気候変動の影響により毎年のように大きな水害が発生しております。今後は災害に対する備えを広域で考える必要がありますので、本会の中心事業と捉えています。

私が会長に就任してから特に力を入れた事業として、研修と広報があります。

研修においては、毎年組合員の希望に沿った研修会を実施し、福島県出身の岡城先生の講習会や、ポリテクセンターの電気設備講習などを組み合わせて、県内各所で開催しております。

広報については、広報紙の内容をより具体的に、また、行政や議員の皆様にも読んでもらえる事を意識した編集としました。

加えて、昨年度に立ち上げたホームページで広報紙のバックナンバーも閲覧できるように

過去の事業を振り返ることが容易になりました。

このように、様々な事業を毎年実施してきましたが、本日来賓としてお越しにいただいている福島県中小企業団体中央会のアドボカイトや、補助金によって大いに助けられました。

この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

以上申し述べましたように、本会はそれぞれに変化する社会情勢の中で、幾多の試練を乗り越え、設立60周年を迎えることが出来たことは、先賢各位のご尽力の賜物であり、更には、関係機関団体のご指導とお力添えのおかげであります。

重ねて厚く御礼申し上げます。

最後に、環境問題が過去にないほど関心を呼んでいる中、我々清掃業に携わる者として、その重要性に改めて思いをいたし、全員一致団結して業務を通じ生活環境の保全と公衆衛生の向上に寄与することをお誓いして式辞といたします。

令和3年5月25日

福島県環境整備協同組合連合会
会長 岡 光 義

設立60周年記念式典感謝状贈呈者

佐藤 博 様	代表取締役	(株)ひまわり
齋藤 真人 様	会長	(有)日河衛生社
本多 昌雄 様	理事長	(協)福島県環境衛生士会
安齋 義勝 様	元取締役会長	(有)赤坂
吉田 孝行 様	代表取締役	(有)吉田総業
杉本 達也 様	代表取締役	大同特殊開発(有)
浦部 俊光 様	取締役会長	郡山清興(株)
高橋 孝光 様	代表取締役	(有)好問衛生社
古河 清美 様	代表取締役	(株)郡清産業
佐藤 秀一 様	相談役	会津清掃(有)
古右 弘 様	代表取締役	(有)古右清興
湊田 政彦 様	代表取締役会長	(有)ミナト
鈴木 雄一郎 様	代表取締役	(有)清美社
金子 久光 様	元専務理事	
大森 馨 様	元専務理事	



祝 福島県環境整備協同組合連合会 設立60周年記念式典

式典にご出席された受賞者の方々



祝辞 県中小企業団体中央会
副会長 金成 孝典 様



受賞者代表の謝辞
本多 昌雄 様

ベトナム国 浄化槽の導入による 分散型生活排水処理水準向上に関する 普及・実証事業

ベトナム国

浄化槽の導入による

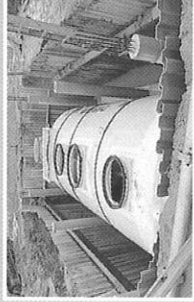
分散型生活排水処理水準向上に関する普及・実証事業

株式会社環境分析研究所・株式会社昭和衛生センター・本多設備工業株式会社(福島県)

ベトナム国の開発ニーズ

- ▶ 急速な経済成長と都市化に伴って排水処理設備の整備が追い付かず、水質汚濁が深刻化
- ▶ 生活排水処理のため都市中心部には下水道が整備されているが、それ以外の地域では分散型処理設備の導入も急務

提案企業の技術・製品



浄化槽および維持管理技術

- 日本独自の生活排水処理技術
- 下水道と同等の処理能力である一方、低コスト・短時間で設置可能
- 需要に応じた段階的整備も可能
- 適切な維持管理を行うことで、本来の処理性能を発揮することが可能となる。
- 設計・維持・管理技術が発達、関連法制度・運用方法も確立

事業概要

- 相手国実施機関：フンクエン省人民委員会・同省天然資源環境局
- 事業期間：2018年5月～2020年12月
- 事業サイト：フンクエン省、ハノイ市

普及・実証事業の内容

- ▶ フンクエン省に浄化槽5基を試験設置し、ハノイ市の既設小型槽5基とあわせて、1年間適切な維持・管理を行い処理効果を確認
- ▶ ベトナムに適した浄化槽の仕様・価格、維持・管理サービス内容を検討
- ▶ 浄化槽維持・管理の技術移転、人材育成
- ▶ 生活排水処理関連法制度の整備に向けた討議

ベトナム国側に見込まれる成果

- ▶ 浄化槽の有効性、維持・管理の必要性に対する理解が向上する
- ▶ ベトナムに適した浄化槽及び維持・管理サービスが提案される
- ▶ 生活排水処理関連法制度の整備、運用強化の取り組みが進展する

日本企業側の成果

現状▶ ベトナムには従来から浄化槽が導入されているが、価格競争力が低いこと、関連法制度の未整備、維持・管理の必要性に及ばず至っていない

今後▶ 法制度の整備進展、維持・管理に対する理解向上により浄化槽の普及可能性が高まる

▶ ベトナムにおいて浄化槽サービス事業を立ち上げ、ベトナムに適した仕様・価格水準の浄化槽と、設置後の浄化槽維持・管理サービスを提供

本会理事による JICAの制度を 活用した事業発表

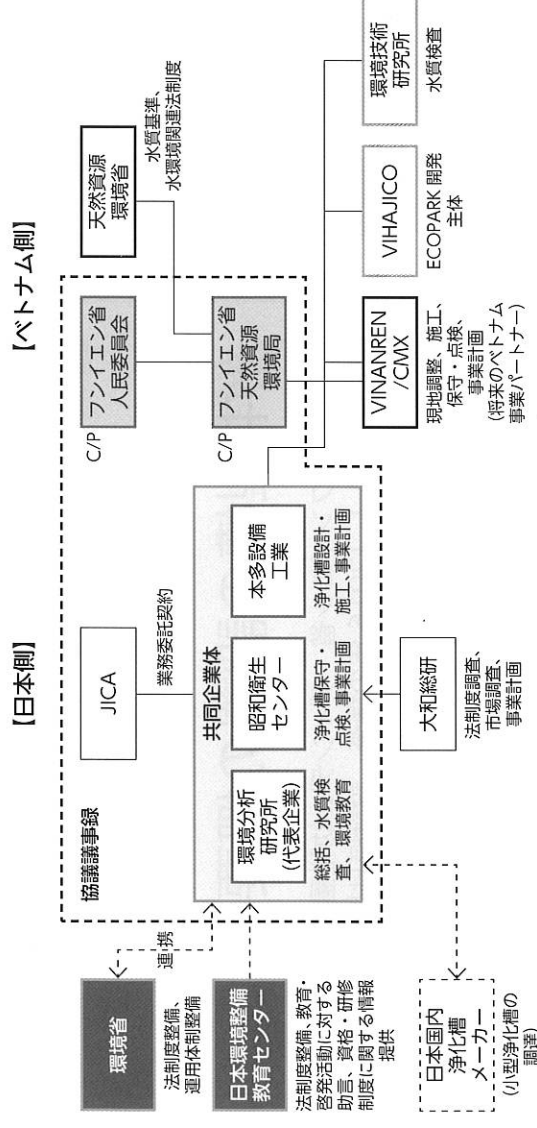
これまでに日本の浄化槽を海外に普及させようとするプロジェクトは沢山ありましたが、メーカーが設置するだけに留まり、管理清掃が適切に行われない事が多くありました。設置だけでなく管理清掃、検査という日本の浄化槽運用のシステム

を築きたいという思いで始まった事業ですが、当初は浄化槽を認識、理解してもらえなかったことから、事業費が限られていることから、設置する浄化槽も日本から輸出する物、現地で製作する物、検討を重ねながらスタートでした。設置後も日本の浄化槽がベトナムの要求する排出基準をクリア出来るのかという課題に取り組みながら、水質調査や維持管理を行なっており

ます(ベトナムでは欧米の法律を準拠した物が多く事体に合わない基準が採用されていたりします)。

今後の課題としては、ベトナムで浄化槽が普及するために今回もご協力頂いている(公財)日本環境整備教育センターや環境省と共に、官民一体で法整備から技術移転までを含めた活動を行なっていく必要があると実感しております。

事業の実施体制



大型槽の概要

設置場所：フンクエン省エコパーク内パークリバー地区 (環境を配慮した郊外型の高級住宅街) 250世帯 約1,000人居住予定。

処理方式：嫌気ろ床生物濾過方式 1,000人槽 (200m³/日処理)



ベトナム事業これまでの経過

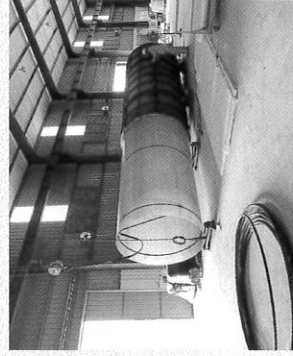
2014. 3月	ベトナムの企業より排水処理、廃棄物処理の技術提案の依頼
14. 6	現地確認し浄化槽の必要性を感じ今後の事業展開を模索
15. 4	JICA案件化調査を開始 ベトナムでの浄化槽普及の可能性について調査開始
16. 8	JICA案件化調査終了 この間にベトナム地方政府と浄化槽設置に関する協定書締結
18. 5	JICA普及・実証事業開始 小型・中型・大型の浄化槽設置と維持管理を行いベトナムに即した浄化槽のあり方を検証する事を目的とする

19. 6	幼稚園に中型槽2基 (日本から輸出設置)
19. 9	個人宅に小型槽2基 (日本から輸出設置)
19. 11	ベトナムで製作の大型槽設置

現在 コロナ禍の影響により訪越出来ないため22. 12月まで事業延長の予定。この間もベトナムに即した浄化槽のあり方を検証する事を目的とする

現在 コロナ禍の影響により訪越出来ないため22. 12月まで事業延長の予定。この間もベトナムに即した浄化槽のあり方を検証する事を目的とする

大型浄化槽製作・工事状況



FRP管体現地製作状況



浄化槽設置状況



フロアはダイヤフラム式を複数台設置



設置完了後の状況



流入量の変化に対応するため4系統に並列設置



機械室内制御盤設置

大型槽維持管理状況



PH、アンモニア等簡易測定



現地スタッフへ機材の使用方法的説明



現地スタッフへ機材の使用方法的説明



塩素剤の補充

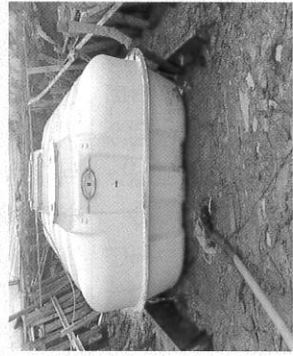


塩素剤の補充

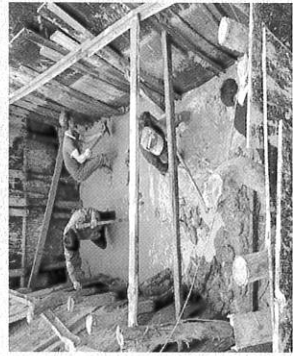


DO測定

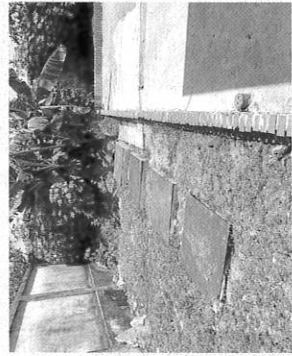
中型槽の工事・維持管理状況



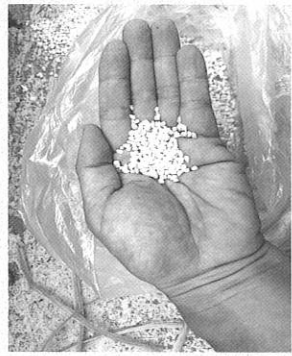
工事状況



工事状況
(ベトナムは地下水位が高い所が多い)



工事完了



アンモニアの基準が厳しい為
ゼオライトでの吸着実験中



ゴミやおもちゃの流入が多い



維持管理状況

中型槽の設置の概要

設置場所：フニン県 デインデュ幼稚園
園児数 700人 (2016年の調査、設計時は園児 400人)
フジクリーン社製 30人槽 2基設置



園舎外観



教室内



園児用トイレ



園児用トイレ (小使用)



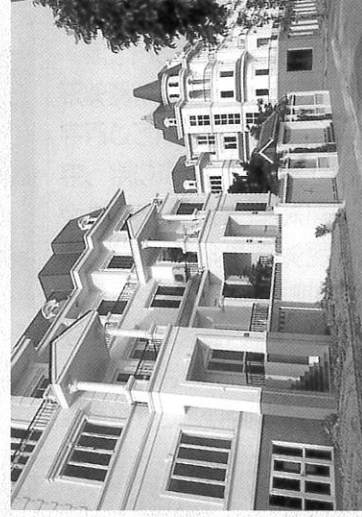
給食調理場



園舎周りの池は
ゴミや魚の死骸等で汚れている

小型槽の概要、維持管理状況

ハノイ市郊外の高級住宅街で日本の浄化槽が約200基設置されているが、維持管理、清掃が行われていない。この中の5箇所を1年間管理を行った。



住宅街の街並み



清掃作業。素手でサンダル!



全てマンホールの上にタイルが貼られている



公社所有のバキュームカー

各地住民説明会



大型槽設置地域での住民説明会

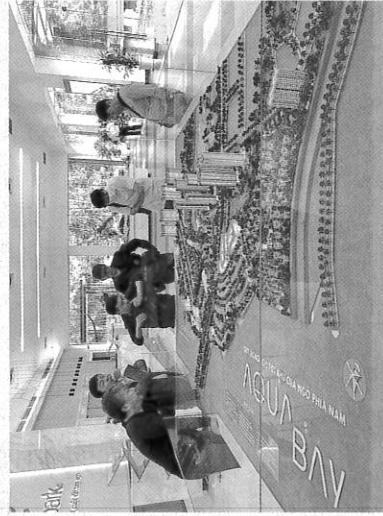


中型槽設置の幼稚園で保護者向け説明会



小型槽使用者への説明会

環整連視察研修 2020年3月1日～5日



エコパーク(大型槽設置) 視察



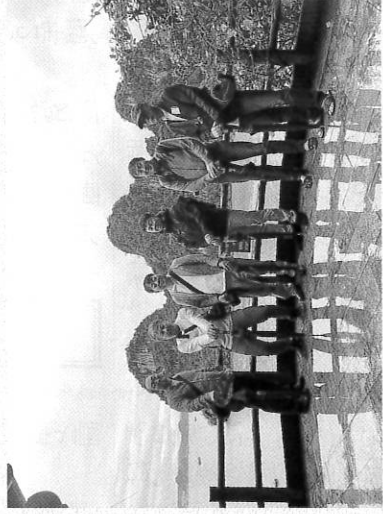
大型槽管理状況視察



小型槽管理状況視察



LIDECO開発会社幹部との意見交換(既存小型槽)



世界遺産 ハロン湾視察



ベトナム料理を堪能

青年部 トピックス

総 会



青年部は、5月25日に郡山市の「郡山ビューホテルアネックス」において、第41回定時総会を開催した。

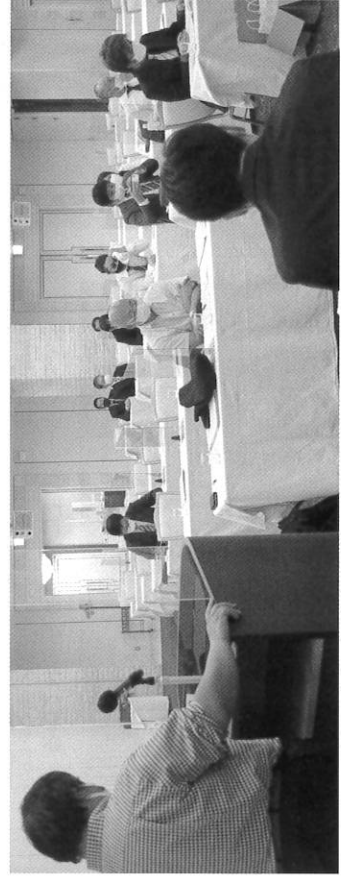
昨年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から部長、副部長がオンラインで書面を確認し決議をした。今年度は感染対策を徹底し、ソーシャルディスタンスを確保して開催の運びとなった。

出席者12名 委任状出席10名
副部長の川田大輔氏（旬白出

清瀬社）の司会進行により、議長に本田光英氏（旬大瀬清瀬社）が選任され議事に入った。

令和2年度事業報告承認の件、並びに収支決算承認の件、令和3年事業計画案承認の件、並びに収支予算案承認の件について審議し、異議なく可決承認された。

続いて、議長が議場に新議題の採択を語り、瀬戸部長から第5号議案に「中央会出向者の選考」が追加、審議された。出向者を小野寺信氏（夕ボタ環境衛生）須賀川（管）に決定し、全審議を終了した。



臨時総会

青年部は、7月29日いわき市環境会館において臨時総会を開催した。

出席者8名 委任状出席14名
副部長の松崎圭氏（旬大島産業）の司会進行により議長の選出について議場に語ったところ、副部長一任の声があり全員が異議なくこれを承認。高橋純一氏（旬好問衛生社）が議長に選出された。

第1号議案 新入部員承認の件
いわき市環境整備
事業協同組合所属
中央環境整備（有）
渡辺 正夫 氏
滞りなく審議され、可決承認。渡辺氏から今後積極的に青年部活動に参加し、交流を図り適性業務の推進等業界の発展に努めたいと挨拶があり、臨時総会を終了した。

研 修 会

昨年度末に総務委員会で開設した本会のホームページについて、製作した「ネクスト情報はましん」から担当者を招きいして研修会を開催した。

開設目を定める「本会のイメージに合わせホームページのカラーや文字を検討」メイン画面の写真撮影・選定リンク先→掲載内容の検討→掲載内容資料

作成→シフト→最終打合せ
→リスト確認→開設

担当者から、全体の流れや本会ホームページの開設費用の説明をしていただいた。

質疑応答のあと、参加者から現在のホームページについて修正した方がより分かり易いのではないかという箇所の指摘があり、皆で協議しダイレクトに修正の要望を出す事が出来た。

総務委員、事務局以外の目でホームページ掲載内容の見直しが出来、とても有意義な研修会となった。



第1回 総務委員会開催

9月22日「いわき市環境会館」会議室において第1回総務委員が開催された。

広報「福島環境」の掲載記事、記事の内容、校正について話し合われた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一昨年度未から講習会・研修会等を開催することができなかったため、広報紙に掲載できる記事が少なかったが、本年は1年延期された「設立60周年記念式典」を通常総会と併せて開催することができた。

これにより、記念式典において本会理事の田原氏、本多氏による「JICAの制度を活用した浄化槽普及実証事業」の発表がなされ、式典に出席できなかった方々もその内容を見たい、聞きたいという考えのもと記事の内容をより良いものにするため、アドバイザーとして本多氏に委員会に参加していただいた。11月発行予定。



難波理事 環境賞環境再生・ 資源循環局長賞

毎年10月1日に「浄化槽の日」を記念して開催される「全国浄化槽大会」に、本会から理事である難波志呂美氏（旬協同清運）を推薦し、環境再生・資源循環局長表彰を受賞。

しかしながら、今年度も昨年と同様に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて表彰式・祝賀会が中止となった。

昨年度受賞者の江口理事と同

追 悼

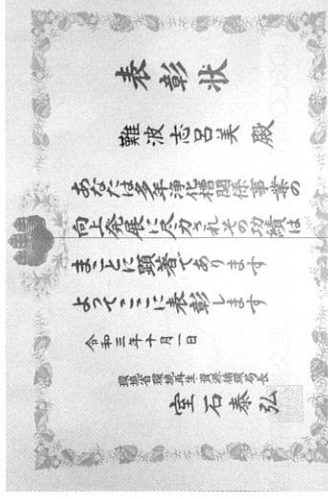


氏 令和3年
英昭 8月1日
大森 全国環境連
監事大森英昭様

昭様が享年88歳にお亡くなりになりました。

私は、昭和60年頃の2年間、研修生として教育センターにお世話になりましたが、その時の調査研究部長が大森先生でした。当時は小型合併浄化槽の開始で、メーカーから委託された水質調査のため、毎月のように泊りがけで24時間、水質採取に出掛けた事が思い出されます。同郷の岡城先生、年が近かった直屬の上司の二本先生には、特に指導いただきました。

その後、実家の家業を継ぐべく地元に戻り、80代後半より環境連の青年部活動を通して大森先生や教育センターの講師の皆



じく、お披露目の表彰式が開催されないのは、大変残念なことでありました。

様との係わりが多くなりました。特に、大森先生が講師の研修会は人気で、豊富な知識とウエットにとんだ語り口で、講習生を飽きさせませんでした。時に、懇親会の後に麻雀卓を囲んだりフンドリ一面もありました。

晩年は、杖を突きながら理事会等に参加していただきましたが、この1年半は新型コロナの蔓延により、顔合わせの機会もなくご葬儀にも出席できず残念であります。

先日、ご婦人の大森佐興子様からお礼状が届き、ご香典を「国境なき医師団」へ寄付されたことを「国境なき医師団」からのお礼状同封で報告がありました。

会員の皆様へ、この事を謹んで報告し大森英昭様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

岡 光義